

気候変動の最新状況（2024年10月版）

2024.10.31

自然エネルギーネットまつもと 平島 安人

地球表面の平均気温：2024年9月の状況

- 地表気温は16.17℃、記録上2番目に暑い9月となった（2023年9月に次ぐ）
- 1850年から1900年までの産業革命前の平均気温の推定値より1.54℃高い

過去12か月 - 2023年10月から2024年9月の状況（短期的な変動を平滑化する）

- 12か月間の記録としては過去2番目に高い気温で、1850～1900年より1.62℃高いと推定される
- 2024年6月、7月、8月までの3つの12か月間の期間で記録された世界平均気温の異常値0.76℃より0.02℃低い
- 2015/16年と2019/20年に到達した平均気温より0.46℃高いピーク値よりもはるかに高い状況

今年（1月～9月）は、1991～2020年の平均より0.71℃高く、現在最も暑い暦年である2023年の同時期より0.19℃高い。

ラニーニャ現象への移行を考慮すると、2024年と2023年の差は年末までに縮小すると予想されるが、今年の残りの月の平均異常値が0.30℃であれば、2024年は2023年よりも暑くなる。

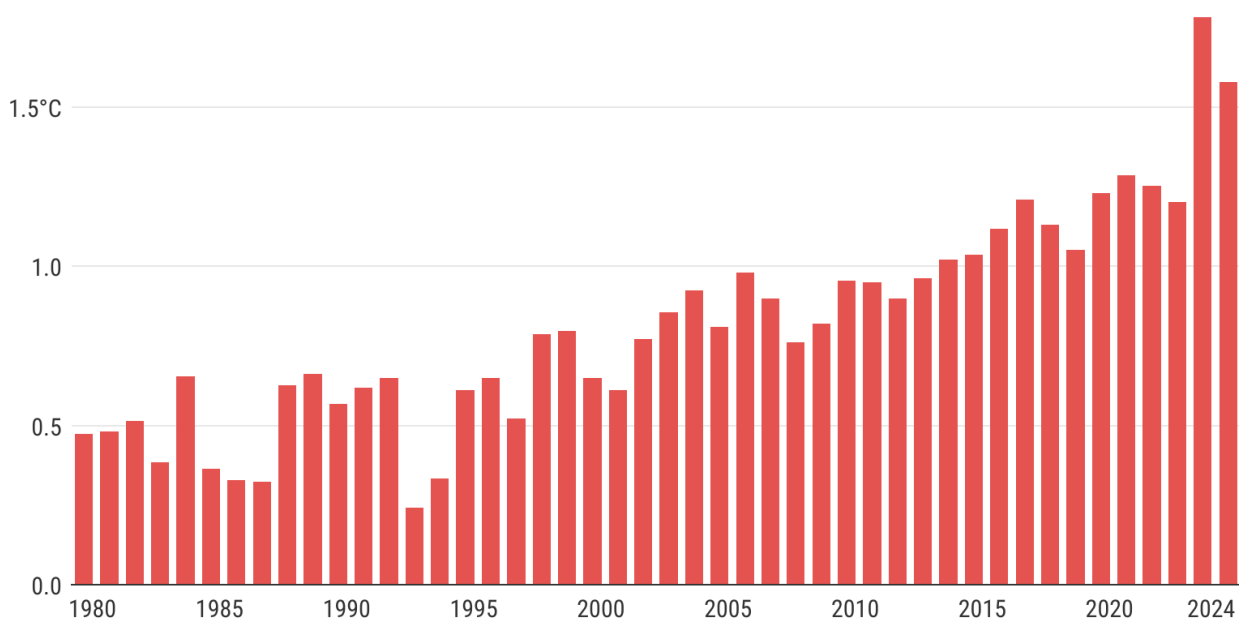
つまり、2024年が2023年よりも暑くならないためには、2024年10月から12月の平均異常値が少なくとも0.41℃低下する必要があるが、今までそのような大きな低下は発生したことがない。

2024年が2023年よりも暑くなり、記録上最も暑い暦年になることはほぼ確実。

Global surface air temperature anomalies for September

Data source: ERA5 • Reference period: pre-industrial (1850–1900)

Credit: C3S/ECMWF



Select one option: **September** all months 12-month average



PROGRAMME OF THE EUROPEAN UNION



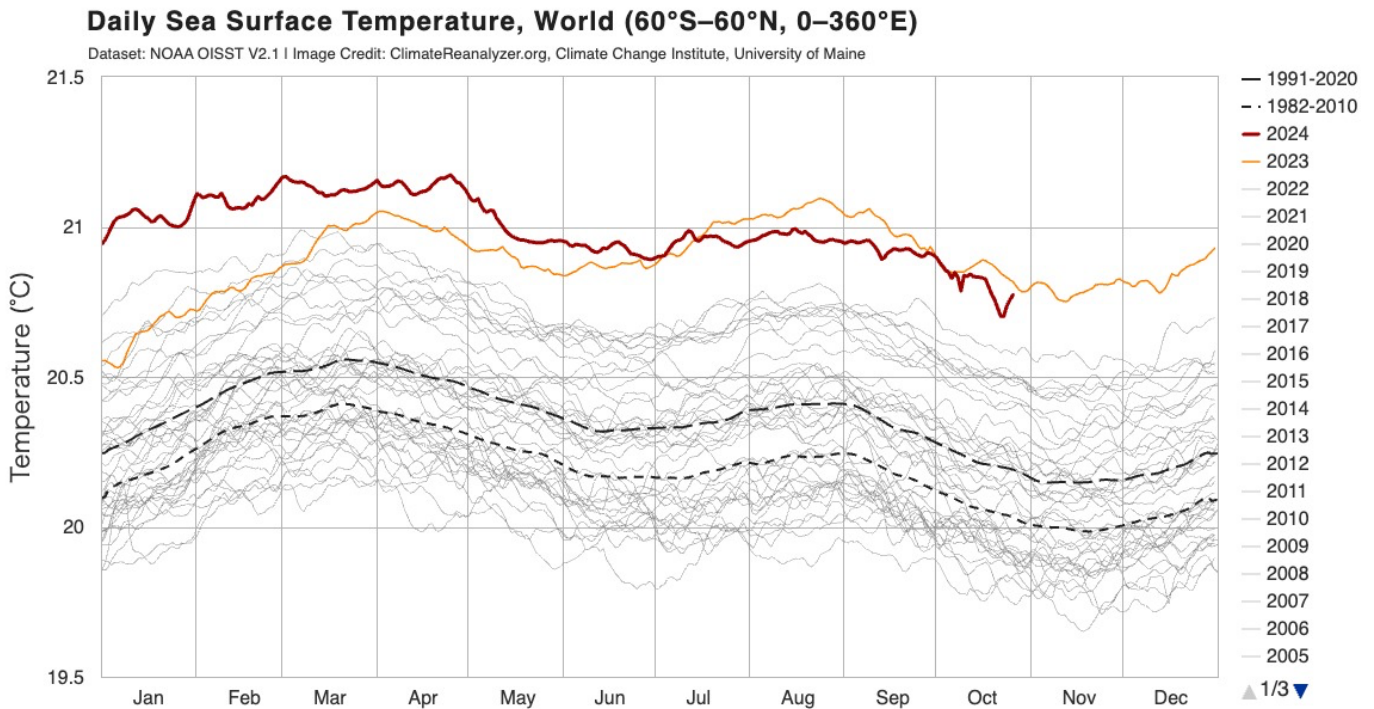
<https://climate.copernicus.eu/surface-air-temperature-september-2024>

海洋表面の平均気温

- ・ 海洋表面温度は 2023 年 3 月中旬以降、最高記録を 1 年間以上にわたって更新した
- ・ 2024 年 7 月中旬以降は 2023 年の観測値を下回るようになったが、過去の観測値よりも著しく高い温度となっている
- ・ 温度変化パターンが今までと違う：3 月が年間ピーク→3 月以降の下降が少なく、8 月がピークに

海洋表面温度の上昇は水蒸気が多くなることを意味する

大気中の水蒸気の増加 → 台風や大雨の激甚化



https://climateranalyzer.org/clim/sst_daily/?dm_id=world2

カーボンバジェット

- ・ あと 5~6 年で 1.5°C 目標のバジェットに到達する
- ・ 2050 年カーボンニュートラルではなく、2030 年カーボンニュートラルが必要

ティッピングポイントが到達目前

- ・ 英エクセター大などのチームが COP28 で発表（2023 年 12 月）
- ・ ティッピングポイント：後戻りできない状態
- ・ 環境ストレスが深刻化し、自然界の大部分が現状を維持できなくなり、急激かつ不可逆的な変化を引き起こす→今この瞬間に温室効果ガスの排出をゼロにしたとしても、気候変動は続いてしまう

★最新速報：2023 年の温室効果ガス濃度は過去最高値に（2024 年 10 月 28 日、世界気象機関発表）

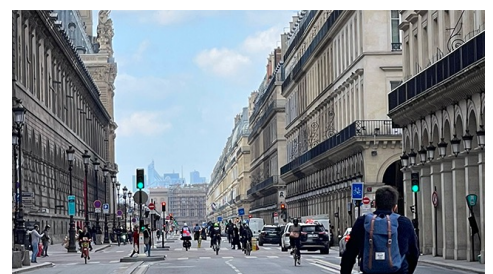
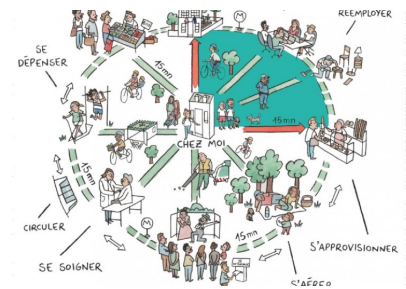
- ・ 二酸化炭素濃度はこの 20 年間で 11.4% 上昇
- ・ 植生の乾燥（二酸化炭素吸収能力低下）と森林火災（二酸化炭素を放出）が濃度上昇を加速
- ・ 海水温上昇により海洋の二酸化炭素吸収能力が低下、さらに温暖化を進める
- ・ 加えて永久凍土の融解（メタン放出）が進むと制御不可能になる可能性あり

サステナブル社会の実現に役立つ事例

- サステナブル：持続可能な（継続可能とは違う）
- 森林経営から生まれた言葉：木が育った分だけを伐採して使っていれば森林は永続する、この状態を持続可能と呼んだ
- 気候変動への対応は必要だが、気候変動だけを考えるのは危険。そもそもは社会を、さらには地球環境全体を持続可能にすることが肝心
- サステナブル社会の実現に資する取り組みや事例を共有することで、“サステナブルな社会を実現できるかもしれない”という実感を生み出し、“何をすればよいか、何ができるか”考えるうえでの手がかりを得たい

15分都市

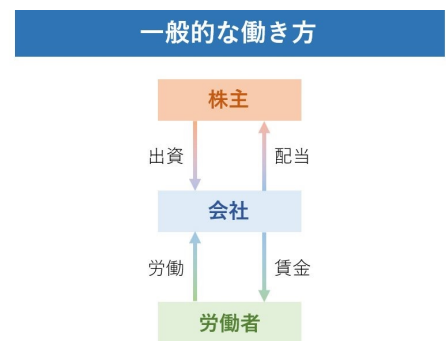
- ④ パリのアンヌ・イダルゴ市長は、2024年までに誰もが自宅を中心としてクルマを使わず15分で仕事、学校、買い物、公園、そしてあらゆる街の機能にアクセスできる都市を目指すと宣言
- ④ 大気汚染や気候変動への対策として「自転車で15分の街」という新たな都市計画
- ④ パンデミックが後押し
- ④ 2016年、ソルボンヌ大学カルロス・モレノ教授が提唱
- ④ ソウル、バルセロナ、ボゴタ、ヒューストンなどでも展開中



リヴォリ通り、ルーヴル美術館横車は、例外扱いの市バス・タクシーなどが右側の1レーンのみ通行可能
メインスペースは自転車とキックボードに
<https://hillslife.jp/>

労働者協同組合法（ワーカーズ法）

- ワーカーズ法：「出資、経営、労働」を一人ひとりが担う三位一体の働き方
- 2022年10月1日施行
- 株式会社、NPO法人とは異なる法人格
- 「**自分で出資し、経営に参加し、働くことで地域に貢献する**」団体が法人格を取得できる
- 3人以上の発起人が集まれば、非営利の労働者協同組合（ワーカーズ、労協）を設立し、労働者派遣事業を除くあらゆる事業を手掛けることができる



商業広告の全廃を決定（スイス・ベルニエ市）

- 広告は「視覚汚染」として屋外の商業広告を全面的禁止する条例を制定
- 私有地の広告を含め、公有地から見える全ての広告に適用
- 近年、欧州では広告への規制強化中、看板設置の禁止が相次ぐ
- **看板は必要以上に消費を駆り立て、環境負荷の高い商品への欲求を高める**
- 一部の反対派が裁判所に条例停止を上訴、最高裁判所は訴えを却下 → 条例成立
- 最高裁の裁定により、ベルニエの看板172個のうち3/4以上が撤去され、残りは文化やスポーツの広告に利用できるという決定が固まる

消費を減らすことを目指したファッションブランド



- 「**脱成長**」の哲学を掲げる企業
- フランスのファッションブランド
"LOOM"は過剰消費を防ぐために不要な広告をなくし、人々が長く愛用できるデザインの衣類を提供
- 無限の利益追求のスパイラルから抜け人々の消費を減らすことをミッションに掲げる



「繊維産業の汚染を減らすためには、衣料品の生産量を減らす必要があると私たちは確信しています。買う量を減らし、より良いものをつくろうという、『**少ない方が、良い**』という考え方がLOOMの根底にあるのです」

“ちょっと不便”なスーパー 「No Name store」



カナダの大手食品小売業者Loblawの食品・日用品ブランド「No Name」が立ち上げた、新形態の**低価格**の店舗

1. 営業時間の短縮（10:00-19:00）
2. 必要なものに絞った品揃え（人気商品中心に1,300種類）
3. 限定的なマーケティング、チラシはなし
4. 冷蔵設備なし（乳製品や生肉製品の取り扱いはなし）
5. 棚やレジなどの備品を再利用 → 建築コストの最小化
6. 週ごとの配送回数を減少 → 物流コストの削減

リビセン（諏訪市）のレスキュー活動

- リビルディングセンター・ジャパン
- 解体が決まった古い建物から古材や古道具を丁寧に取り出す
- 古材や古道具が再び使われる機会を与える
- 新たな資源を投入することなく、社会のニーズを満たす
- 解体される建物の大家さんの気持ちをレスキュー
- **大家さんが大切にしてきたものが、形を変えて大切なものとして引き継がれる**



リビセンコンセプトブック

「リビセンのような店や拠点を全国各地に増やしたい、そこが核となって増えればよい。そのために**ぼくらはリビセンのノウハウを公開している**」（リビセン代表 東野 唯史さん）

藤原印刷（松本市）の「心刷」

- 心刷：一文字一文字に心を込め、一冊一冊を大切にしてお本をつくる
- 少量の印刷を大切にし、発注者の想いを最大限に表現できる印刷で応える
- 既存の事業に限界を感じ、穏やかな変革に舵を切った
- 大量に複製する時代は終わり
- 現実を見ると規模に目がくらみボリュームを追う値下げ合戦
- **100万円の仕事1件より、1万円の仕事を100件やる方を選ぶ**
- なぜなら1万円の仕事には作り手の熱が詰まっていることが多い
- ゴールは「1つの仕事を通してどれだけ喜んでもらえるか」



「一文字に対する心」
一文字一文字に心を込める仕事